

三才児の 友だち遊び



富 樫 純 子

今年の四月から受持った三才児十五人の友だち遊びのを中心としてふりかえってみる。前から計画して実際に観察したり、記録したりしたものでなく、保育日誌の中などから思いつくままに拾ったものであるので、系統だったものでないことを、はじめにおことわりしておく。この三才児は、年少の級で男児七人のうち、七月生一人、八月生二人、九月・十月・十二月生各一人、三月生一人と、女兒八人のうち九月生二人、十月生三人、一月生二人、三月生一人の幼児である。

○入園のころ

四月九日 入園してきた幼児たちは、一人で遊べない子、おとなに一对一で相手になって遊んでもらわないと気のすまない子、友だちと遊びたい気持はあるが、うまく遊べない子などで、その上、新し

い環境にもなれないので、入園当初は一人で勝手に遊ぶか、遊べないでぼんやりしているか、おとなといっしょなら遊ぶが、気持が不安定でちょっとしたことにも泣くという状態であった。

○グループのあらわれ

四月十四日 はじめて友だちだけで、あわいグループの遊びがみられた。男児の一人が友だちの名前を一生懸命よんで遊ぼうとして、呼ばれたかたもいっしょに積木や電車で協力して遊んでいた。女兒はままごとで、二人話合って、いっしょにごちそうをつくったり、いっしょに出かけたりしていた。これをはっきりグループ遊びとみてよいかかわからないが、男児の場合、友だちと遊びたい一人の積極的な働きかけでグループが出来たようだった。他の子どもは、同じ積木遊びをしても、絵本を見ていても、それぞれ別々に遊んでいるように見受けられた。私が前に受持った三才児(これも年少の級)では、四月二十一日に女兒三人、がやはりままごとで友だちだけでグループで遊んだことと思ひ合せて、グループの出来るような適当な遊具を用意しておく必要をしみじみ感じた。その後、四月十八日に男児四人が少しの間であったが、積木でグループらしい形で遊んでいた。この四人が七月八月九月十月生の子どもたちであったので、この年令では、もちろん今までの環境や、性格にもよるが、少しの年令差がこういう点にもあらわれるのかと考えさせられた。

○友だち同志のむずびつき

四月の末頃には、なんとなくまとまって遊ぶようになり、たとえば砂場に数人、絵本に数人、ままごとに数人と、今までのようにばらばらで遊ぶということが少なくなってきた。はじめ、先生といっしょで始まった遊びが、先生がやめたためこわれてしまうということが少なくなってきたし、友だちといっしょに遊ぶという気持ちも大分出てきたらしく友だちと同じ遊びをするというようになってきた。

友だち同志のむすびつきが強くなってきたことも感じられ、たとえば登園してきても「○○ちゃんまだ」ときいたり、「○○ちゃん早くこないかな」と友だちを待ったり、友だちと遊びたくて幼稚園にたのしみに来るようになったなどお母さまがたの話からもうかがえた。

一方まだまだ友だちと遊ばないで、ほとんど一人遊びの子どもが、五人男児三人女児二人いた。遊びやすい環境にと留意し、適当な機会に友だちと遊ぶようにさせたり、いっしょに遊んだり、助言や助力をして友だちと遊ぶきっかけをつくったりしても、一人で遊びをたのしんでいるようであった。また友だちとよく遊ぶようになってた反面五月の始め頃より、けんかが目立って多くなった。

友だちと遊ぶ機会を出来るだけ多くと、集団遊びを入れたり、相手の必要な遊び、たとえばなわ電車ごっこなどを発展させたりした。また子どもたちの間から出て来たあそびの写真ごっこなども取上げた。この写真ごっこは、くみ木で写真機をつくり写すという相手が必要なので、友だちと遊ぶきっかけの一つとなった。

○友だちとあそぶ

五月の末には、お弁当の後先生がお弁当の片付けなどしているのに、却って友だちだけで遊ぶ機会が出来た。この頃になって、男女別にグループが出来た日が多くなってきたことと、友だちと一つのことで遊ぶ時間が長くなってきたことが目についた。もちろん男女混つて遊んでいることもあるが、男児だけで、たとえば砂場の電車で遊ぶという時が多くなり、友だちだけで長い時間遊べるようになった。

友だちと遊ばなかった子どもたちも、だんだんに友だちと遊ぶようになった。まだ女児の一人はさそれなければ友だちと遊ばないこともあり、先生が友だち遊びの機会をつくるよう注意しなくてはならなかったが、ずっと一人遊びで、全然友だちと遊べないのは男児一人になった。六月の中頃、子どもたちの間から幼稚園ごっこや学校ごっこの遊びがみられ、これは男女十人前後で遊んでいた。六月の末頃には、男児の間で消防ごっこがやはり、この消防ごっこは男児六人が参加して、四、五日続けてグループでよくまとまって遊んだ。

七月になりグループ間の交渉が少し出来てきた。たとえば、ままごとのグループが電車に乗って出かけるとか、電話をかけて絵本を読んでいるグループをままごとにしごうとか、ままごとに本屋さんやお菓子やさんが売りにいたり、ままごとからお店に買いに行くなどするようになった。

男児一人は六月に病気で幼稚園をしばらく休んだこともあるが、一学期中、一人遊びで友だちに関心を示さず、友だちの名前も一人も覚えないうろだった。

○二期期になつて

九月、久しぶりの幼稚園で、三、四人は、先生の後はかりついて歩いたり、ぼんやり友だちの遊ぶのを見ていたりして、友だちと遊ばない子どもたちも一週間ぐらいでまたもとのように、友だちと遊ぶようになった。今まで絵本を友だちだけでみるところがなくなったが、九月の中頃になり、同じ絵本を友だちと話合ってみようになつた。遊びも、やや組織だつてきて、たとえば同じ電車ごっこをしていても、駅長さんをつくるなどして、遊びが発展するようになった。またグループ間の交流も盛んになつてきて、たとえば、ままごとあそびのグループがおたん生日に電車の車掌さんを呼んで、遠足に行く相談をして、電車に乗り遠足に行き、一しよにごちそうを食べる。そこに、お店やさんのグループとままごとのグループのむすびつきが加わるなどするようになった。

先学期から一人遊びの男児は、友だちと遊ぶきっかけをつくりさそつてもおうじないで、相変らず一人でたのしんで遊んでいる。ただ前学期より級の友だちの遊んでいるそばにいっしょにいるときが多くなった。この男児は一人っ子で三月生であり、家庭でもおとなと遊ぶか、近所に友だちがないので一人で遊ぶことが多い。今まで同年令の子どもと遊んだことがないというのが、友だちと遊べない原因の一つだと思ひ、夏休み前に同年令の友だちと遊ぶ機会をつくるように注意したが、お休み中にはそういう機会は出来なかつたようだった。はじめて九月の二十二日くみ木で電車をつくるとき五分

ぐらいの間であつたが一人の男児といっしょにつくつた。

この頃より友だちの話しかけに反応を示すようになった。今まで何か友だちが話しかけても返事もしないでいた。九月二十六日におすもうごつこのグループをみて、僕もやりたいというので仲間に入れてもらい少しの間参加し友だちといっしょに遊んだ。友だちと遊びたいという気持が出てきて、本当によかつた。九月末のこの頃、まだ一人遊びのときが多いがこれからは、だんだんに友だちあそびのたのしさがわかるよう、機会あるごとに友だちと遊ぶよう指導していきたいと思つている。この男児はたいへんこわがりで運動具での遊びには関心がないようなので、その方面からの指導も併せておこなうようにしたいと思ふ。

三才児の友だちあそびの実際の様子をのべてきたが、子どもたちが帰つた後で書いた保育日誌などの中からの記録なので、細かい点までわからないこともある。私たちが日常保育していて、自然の友だち遊びやグループ遊びの様子やその他、続けて観察したり、記録したりしたいと思う場面がしばしばあるが、保育中でせいぜいメモ程度のことしか出来ないのが残念である。こういう点でいろいろ研究したり、努力していらっしゃるかたの御意見もうかがわせて頂きたいと願つている。これからは、友だちと遊ぶ機会を多く持ち、集団遊びを多く入れたたり、自発的な遊びをより発展するように指導して、いろいろな友だちと遊んだり、大ぜいの友だちとも遊べるように仕向けていきたいと思つている。